



|              |                                                                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 多発地区における脳卒中の特徴とその対策 : モデル地区対策から一般化への試み                                                                                                          |
| Author(s)    | 嶋本, 喬                                                                                                                                           |
| Citation     | 大阪大学, 1972, 博士論文                                                                                                                                |
| Version Type |                                                                                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/30737">https://hdl.handle.net/11094/30737</a>                                                             |
| rights       |                                                                                                                                                 |
| Note         | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、<a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">大阪大学の博士論文について</a>をご参照ください。 |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 【1】

|             |                                                   |                |                 |
|-------------|---------------------------------------------------|----------------|-----------------|
| 氏名・（本籍）     | しま<br><b>嶋</b>                                    | もと<br><b>本</b> | たかし<br><b>喬</b> |
| 学 位 の 種 類   | 医                                                 | 学              | 博 士             |
| 学 位 記 番 号   | 第                                                 | 2 6 0 8        | 号               |
| 学位授与の日付     | 昭 和 47 年 5 月 10 日                                 |                |                 |
| 学位授与の要件     | 医 学 研 究 科 社 会 系<br>学位規則第5条第1項該当                   |                |                 |
| 学 位 論 文 題 目 | <b>多発地区における脳卒中の特徴とその対策<br/>—モデル地区対策から一般化への試み—</b> |                |                 |
| 論 文 審 査 委 員 | (主査)<br>教 授                                       | 関 悌四郎          |                 |
|             | (副査)<br>教 授                                       | 恩地 裕           | 教 授 阿部 裕        |

## 論 文 内 容 の 要 旨

### 〔目 的〕

本論文の目的は、脳卒中の多発地区における特徴を、疫学的な調査方法で明らかにし、その結果得られた知見にもとづいてモデル的に脳卒中对策を行ない、さらにそれを一般化して、行政的な対策にまで結びつけようとする点にある。前段においては、①脳卒中多発地区である秋田と、比較的発生率の低い大阪の両地区の脳卒中を、年令別、病型別（脳出血、脳硬塞）に比較検討するとともに、② Prospective studyにより、多発地区の脳卒中が高血圧性変化に由来するものが多いか、脂質代謝異常に由来するものが多いかを検討した。後段においては、府県単位の行政機関が地区の医療機関と協力して実施したモデル地区の脳卒中对策が有効であることを立証した。最後に脳卒中对策を一般化するための資となることを目的として、検診方法、対策の効果判定の方法について検討した。

### 〔成 績〕

(I)秋田の脳卒中の特徴は次の通りである。

①脳出血、脳硬塞とも大阪のそれよりも若年から発作がおこり、各年令層において大阪より多発する。②大阪に比べて発生率が特に著しい差異を示すのは、脳出血、脳硬塞とも、比較的若年層（30～59才）である。③全般にわが国の脳卒中は脳出血、脳硬塞ともに、高血圧の影響が著しく、脂質代謝異常の影響が少ない。とりわけ、秋田の脳卒中は脳出血、脳硬塞ともに高血圧の影響が著しく、高脂血症を伴うものはまれである。以上の成績から、多発地区の脳卒中对策は、まず第一に高血圧に重点をおくことが必要であることを明らかにした。

(II)モデル地区における脳卒中对策を行なうに当っては、この結果が将来の行政的な対策の資となるよう、また他地区にも継続的に広範囲に応用することができるように留意した。即ち、検診により発見した高血圧者の管理に当っては、治療は地元医療機関が中心となって、その日常診療の中に組

み込んだ形で行ない、保健指導は保健所および国保の地元保健婦が担当した。このように継続性かつ普遍性のある医療のしくみの下で、①脳卒中発生率の著しい減少を認め、②その減少を病型別にみると脳出血に著しく、③年齢別には比較的若年層に著しいことがわかった。④また、継続受療者からの脳卒中発生率は、放置または断続受療者からのその約2分の1であり、継続受療が管理効果に結びつくことを認めた。

Ⅲモデル地区の成績をもとに、脳卒中对策を多発地区で一般化するための方法を検討した。検診方法の検討にあたっては、あらかじめ多項目にわたる検診を実施した群の中からの脳卒中発作者をもれなく集め、Prospective studyによりRisk factorの検討を行なう方式をとった。この結果、脳卒人多発地区においては血圧測定と問診（脳卒中、高血圧の既応歴調査）でスクリーニングを行なう方式では、①将来、脳卒中をおこす可能性のあるもののうち、90%はあらかじめ把握しうること（多発地区でない場合は75%）②全受診者の50%（多発地区でない場合は20%）を要注意としてスクリーニングしうることを明らかにした。次に眼底または心電図に異常所見を有するものは有しないものに比べ、同じ血圧群でも脳卒中発作の危険度が高い（2～3倍）ことを示し、スクリーニングされたものに対して眼底、心電図を精密検査として実施すれば、その中でも危険度の高いものを選び出しうることを明らかにした。

効果判定の方法については、(i)発生率でみる方法、(ii)死亡率でみる方法を検討した。基礎的な検討では、発生率によりこれを見たが、行政的見地からこれを一般化することを考えて、把握の困難な小発作をすて、大発作の発生のみで高血圧対策の効果がみられるか、あるいは一步進めて脳卒中死亡率のみの推移で効果が判定できるか否かを検討した。

その結果、(i)比較的把握の容易な明確な発作（脳出血が多く含まれる）を把握し、その発生率の推移をみること、(ii)死亡票から脳卒中を疑われる者を選び出し、脳卒中の確認調査を行ない、初回発作による脳卒中死亡者のうち、発症から短期間で死亡するものについて、死亡率の推移をみることで、多発地区においては、効果判定を行ないうることがわかった。

#### 〔総括〕

(I)わが国の脳卒中の多発地区における特徴は

①比較的若年層における脳出血の多発、②脳出血、脳硬塞とも高血圧の影響が著しく、脂質代謝異常の影響は少ないことである。

Ⅱ行政機関、医療機関、住民組織と協同して行なったモデル地区の脳卒中对策の成績から、地域医療機関による日常診療、保健婦による生活指導を中心とする高血圧管理によって、脳卒中発作を約2分の1に減少しうることを示した。

Ⅲ多発地区において行政的に脳卒中对策が実施される場合の資となることを目的として、対策の一般化のための方法を検討した。

(i)検診方法については血圧と問診によるスクリーニング方式が有効である。(ii)対策の効果判定の方法については、①比較的把握の容易な明確な発作のみの発生率から判定する方法を提唱し、②発生率の調査が困難な場合に備えて、死亡率から判定する方法について検討した。

## 論文の審査結果の要旨

本論文は、わが国の脳卒中多発地域の地域住民に高血圧検診及びその後の医療、保健指導を行なうことにより、脳卒中発作をほぼ $\frac{1}{2}$ に減少せしめうることを明らかにした点に大きな意義を持つ。しかもこのことは病院内の成績でなく野外でこれが確かめられたことに行政的にみてより大きな意義がある。また、脳卒中对策を一部の特定地区に限定されたものとしないうちに広く一般化することを指向し、検診方法、効果判定の方法を検討した点に第二番目の意義がある。